

# KELES Newsletter

## 関西英語教育学会報 2021年度 第3号

事務局：〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学 教育学部 教員養成課程 橋本健一研究室内

E-mail: kelesoffice@gmail.com 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2022年3月26日発行



### 巻頭言

### 今年度で退任する幹事より

関西英語教育学会の活動において、会運営の実務を担う幹事の存在はたいへん重要です。ご多忙の中2期4年の幹事の任期を終え、今年度で退任する4人の先生方から一言ずついただきます。

2018年度から2期4年、KELESの幹事を務めさせていただきました。会員の皆様や他の委員の先生方には多分にご迷惑をおかけいたしました。幹事の業務を通じて様々な先生方にお会いできたこと、そして卒修論セミナーを始め様々なイベントの運営に関わられたことは、間違いなく今後の財産になると思います。本当にお世話になりました。

今野 勝幸 (龍谷大学)

私は2012年の卒修論セミナーで初めて学会発表をしました。それから10年、恐れ多くも学会運営をさせていただく立場となりました。幹事として意識していたことは、育てていただいたKELESに恩返しをすることでしたが、企画の立案等、少しはお返しすることができましたでしょうか。4年間貴重な経験をさせていただきありがとうございます。KELESの益々の発展を祈念するとともに、これからも一会員としてKELESで学ばせていただきたく思います。

南 侑樹 (神戸市立工業高等専門学校)

会計担当幹事として、まことにお世話になりました。卒修論セミナーを中心に携わらせていただき、貴重な経験をさせていただきました。ご迷惑をおかけすることも多々あったかと思いますが、任期中、ご指導・ご協力をくださった先生方には感謝を申し上げます。引き続き、一学会員としてお世話になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

山形 悟史 (関西大学第一高等学校)

あっという間の2期4年でしたが、前会長の里井先生、現会長の泉先生、そして事務局長の橋本先生の旗の下でコロナ禍でも事務局一同が試行錯誤して研究大会やセミナーを開くことができました。研究大会特設サイトの開設や、オンライン開催用のツールの利用にも挑戦しました。対面開催と比較した場合のメリットとして遠隔 (ハイブリッド) 開催も今後の学会のあり方の1つであるように思えました。今後ともよろしくお願いいたします。

谷野 圭亮 (大阪府立大学工業高等専門学校)

## 報告 関西英語教育学会 第53回 KELESセミナー

開催日：2021年11月7日（日） オンライン開催

KELESでは年末に向けて3回の連続セミナーを開催しております。本年度3回目となる第53回セミナーでは「観点別評価—その本質と評価の実際」というテーマで、関西大学の今井裕之先生、神戸大学附属中等教育学校の増見敦先生、神戸市立葺合高等学校の竹下厚志先生にご登壇いただきました。講師の先生方、そしてご参加くださった約80名の皆様から感謝申し上げます。以下、セミナー全体の報告を記します。

### 第53回 KELESセミナー

#### 観点別評価—その本質と評価の実際

中・高外国語科における「指導と評価の一体化」の  
課題—資質・能力の評価とコミュニケーション  
能力の評価の間で—

今井 裕之 先生（関西大学）

「主体的に学習に取り組む態度」の見取りと評価：  
言語活動の「振り返り」に関する実践から  
増見 敦 先生（神戸大学附属中等教育学校）

観点別評価のめざすものは？英語指導の方向性  
—内容 (contents)それとも技能(language/ skills)?  
竹下 厚志 先生（神戸市立葺合高等学校）

今井先生からは、小・中・高の英語教育の現状について、新旧の学習指導要領における評価の観点と内容のまとまりを中心にお話しいただきました。まず、文部科学省より示されている「育成すべき資質・能力3つの柱」は、全教科に共通する資質・能力のモデルであって外国語能力のモデルではないこと、外国語能力は「知識 (Traditional Knowledge)」の一つであること等をご紹介いただきました。そして、「指導と評価の一体化」に関わり、思

考・判断・表現と自己調整を一体化し、小学校で行われている「振り返り」を継続、発展させ、自己調整を促す指導過程を目指すことや、振り返りシートの項目に学習方略の内容を採り入れることで、継続的に学習方略の使用を促すことなどをご提案いただきました。さらに、「動機づけ調整方略」等の観点から、児童・生徒のこぼれ、意味、意図、感情を帯びた発話として指導者が受け止めることの重要性についても言及され、改めて自身の指導を振り返る機会をいただきました。

続いて、増見先生からは、実践の背景となった「主体的に学習に取り組む態度」の捉え方が指導者の指導観や信念により変化することはないか、あるいは、それらを何らかの物差しで測ることはできるのか等の疑問が示され、「生きられた経験 (lived experience)」（van Manen, 1997）に着目し、中学1年生を対象に行われた「振り返り」を主とした実践についてご紹介いただきました。実践における問いとして、「Q1 振り返りの指導により、生徒は学びの経験や自己の変容、及び自身の学習課題についてどの程度自覚的に捉えることが可能となるか?」、「Q2 生徒はどのような振り返りの視点を持っているか?」、「Q3 粘り強い取組・自己調整を見取るための条件とは?」を設定され、振り返りの指導・評価をカリキュラムに組み込まれた過程や結果について詳細にお話しくださいました。自らの授業において「生徒の置かれた世界」「英語授業経験」を理解しようとする態度を持つこと、自身の指導観に向き合い、その妥当性を問い続ける姿勢を持つことが重要であると述べられていた点が大変印象に残りました。

最後に、竹下先生からは、ご自身の英語授業づくりの枠組み、新観点（3観点）を意識し

た授業づくりの実際、旧観点（4観点）に基づく授業、新観点別評価に関する疑問についてお話をいただきました。新観点を意識した授業については、現在のご勤務校でのご実践を、旧観点に基づく授業については、前任の神戸大学附属中等教育学校でのご実践を実際の教材等を示しながら詳細にご紹介くださいました。これまでより学習者の言語に対する自信を高めることや、社会的な話題を扱いながら国際理解教育の観点からの指導を大切にされていることなどをお話しくださるとともに、新観点における評価や定期考査の在り方

などについては、現在も検討を重ねておられるとのことでした。竹下先生は、ご発表の中で、観点が変わってもご自身の授業は変わっておられないと述べられ、これまで先生が大切にされてきたことは新たな外国語教育においても重要な視点であることを教えていただきました。3名の先生方のご発表から多くのご示唆をいただくとともに、一教員として自身の指導を見つめ直す機会を頂戴しましたことを心より感謝申し上げます。

(報告者: 京都教育大学附属桃山小学校 俣野知里)

## 報告 関西英語教育学会 第25回 卒論・修論研究発表セミナー

開催日：2022年2月11日（金・祝） オンライン開催

標記セミナーが、大学英語教育学会関西支部と外国語教育メディア学会関西支部の共催にて開催されました。新型コロナウイルスの影響で、本セミナーも引き続きオンラインでの開催となりました。研究発表は合計16件（発表者・タイトルはセミナーウェブサイト ([http://www.keles.jp/news/keles25\\_thesis/](http://www.keles.jp/news/keles25_thesis/)) 参照) で、件数的にも昨年比で倍増となり、盛り上がりを取り戻しつつあることに喜びを感じています。コメンテーターの先生には本年も様々な角度から深いコメントをいただき、ご指導の先生や参会者も交えて白熱した議論が展開されていました。またランチョンセミナーでは若手幹事3名から教師として研究を続けていく上での様々なtipsが披露され、多くの学生・院生、また若手教員の参考になったことと思います。

スペシャル・トークでは上智大学名誉教授の吉田研作先生をお招きして、「日本の英語教育—金魚鉢から大海の道」というタイトルでご講演いただきました。日本の英語教育をよくしていきたいという熱い思いや、それを実現していくための豊富なアイデア、さらにそのアイデアを実行していく行動力等、非常に感銘を受ける

お話をさせていただきました。これからの英語教育を担う若者たちへのメッセージをという卒修論セミナースペシャル・トークにぴったりであったと思います。

お忙しい中貴重なお話をさせていただきました吉田先生、発表者に様々なご助言をいただきましたコメンテーターの先生方に心から御礼申し上げます。また日本全国から約140名の方に事前参加登録をいただいております。ご参加くださった皆様に御礼申し上げます。来年度も多くの学生の皆さん、先生方が関わって下さることを期待しております。

### <スペシャル・トーク報告>

#### 「日本の英語教育—金魚鉢から大海の道」

上智大学名誉教授 吉田 研作 先生

どうすれば学習者が英語を習得できるようになるのか、教師・研究者を問わず英語指導に関わる全ての人が考えていることだと思います。吉田研作先生は今回のご講演を通して、このあまりにも大きな課題を解決していくために私達教師・研究者が立ち返るべき原点を改めて気づかせてくださいました。例えば、これまでの日本の英語教育は、主に教室の中に限

定された英語学習に基づく fish bowlモデルに当てはまる傾向にあったもの、今後は、教室内で学んだ英語の知識・技能を教室外で自由に使ってコミュニケーションを図ることに主眼を置く open seasモデルにしていく重要性についてお話しいただきました。私達はこのことを頭の中ではわかっているかもしれませんが、普段の授業で行っている活動の1つひとつが「英語を使って積極的にコミュニケーションを図ることができるようになる」というゴールにつながっていると自信を持って断言するのは意外と難しいのではないのでしょうか。加えて、授業以外のことで忙しくなったり、やる気のない学習者を目の前にしたりすると、「使えるようになる」ことからはやや離れた活動をこなすことに躍起になってしまうことが多々あります（私だけかもしれませんが…）。吉田先生のご講演を聞きながら、自分の授業実践を振り返り、大いに反省したことは言うまでもありません。また、先生のお話の中では、国際コミュニティにおける our Englishの必要性、そして実際の英語でのコミュニケーションにおいては言語の accuracyだけではなく acceptabilityの重要性も挙げられていました。学習者が自由に、そして積極的に英語でコミュニケーションを図れるようになるためには、私達英語教師がすべきことはまだまだたくさんありそうです。自分自身の英語力を磨きつつ教室の中での英語使用を最大化し、様々なプラクティスや活動を通して得た知識や技能を使って学習者が自分の考えを英語で表出する機会を豊富に作る必要があります。その中で1つひとつの活動が「英語で自由にコミュニケーションを図ることができるようになる」ことに繋がるよう留意し、一人でも多くの「大海を泳ぐ日本人」を育成できるようにしなければならないと、改めて思わされた刺激的なご講演でした。

（報告者：龍谷大学 今野 勝幸）

#### <発表者体験記>

今井 葉月 さん（京都教育大学大学院）

今回はコロナ禍という難しい状況の中、このような発表の機会を提供していただき誠にありがとうございました。2年前にも発表させていただきましたが、その際にも今回のようにコメントーターの先生や会場の皆様からたくさんの方の知見をいただき、自分自身の研究をより深く見つめる機会となりました。

私は「多読を通じた自己調整学習により自己決定理論の観点から生徒の動機づけを向上させる」という内容で発表をさせていただきました。英語を外国語として学習する状況にある中で、学ぶ意味を生徒自身が見つけるためにも、自己調整学習は大きな意味を持ちます。自己調整学習を進める中で、生徒がどのようなときに面白さや興味を持つのか、また初めはあまり乗り気ではなかったとしても英語学習に楽しさを感じるようになるその過程が知りたいと思い今回の研究を行いました。1か月の多読活動の後、アンケートや自由記述を分析する中で、日々接している生徒が考えたこと、気づいたこと、成長したことに気づくことができ、今までよりさらに広い視野から生徒の学びをみとめる機会を得たと感じています。

この卒修論セミナーという貴重な場で発表させていただいた経験を胸に、4月から教壇に立ち、生徒に真摯に向き合っていくとともに、自らの知見をより深めていきます。



## 学会事務局からのお知らせ

### ◆学会費納入のお願い

新年度を迎えるにあたり、2022年度学会費納入をお願いいたします。詳しくは、同封のお知らせをご覧ください。

2021年度分の学会費が未納の方はあわせて納入をお願いいたします。なお、2021年度分を2月末までにお支払いいただいていない場合は、8月に開催の全国英語教育学会第47回北海道研究大会での発表ができませんので、ご了承くださいませ。

### ◆2022年度関西英語教育学会（第28回） 研究大会のお知らせ

標記研究大会が以下の通り開催されます。社会情勢を鑑みまして、2022年度もオンラインで開催いたします。

日時：2022年6月11日（土）・12日（日）

開催形態：オンライン（Zoom利用予定）

年次大会特設ウェブサイト：

<https://sites.google.com/view/keles2022/>

研究発表、公募ワークショップ、公募フォーラムを募集中です。発表申込締切は5月10日（火）です。詳細は同封の発表募集チラシ、特設ウェブサイトをご覧ください。

【講演（11日午後）】

渡部 良典 先生（上智大学）

この他セミナー・ワークショップを鋭意企画中です。詳細が決まり次第随時特設ウェブサイトにてお知らせいたしますので、ご確認をお願いいたします。

### ◆全国英語教育学会第47回北海道研究大会

標記大会が以下の通りオンラインで開催されます。多くの皆さまにご発表・ご参加いただければと思います。詳しいご案内につきましては4月中旬をめどに皆様に郵送でお送りいたします。「全国」の会員ではないという方も、場所を選ばないオンライン開催ということもございますので、ぜひ参加をご検討くださいませ。

日時：2022年8月6日（土）・7日（日）

開催形態：オンライン

### ◆お問い合わせフォームについて

下記に関するお問い合わせはフォームから事務局にお知らせください。

学会費・学会誌・研究大会・各種セミナー・入退会・会員情報の変更・その他学会全般に関するお問い合わせ

### ◆編集後記

私事でたいへん恐縮ですが、今号が現事務局からお送りする最後のニューズレターとなります。約20年前に現在顧問の沖原勝昭先生にお誘いいただいて事務局のお手伝いをさせていただきましたが、その時にご一緒させていただいたのが現会長の泉先生と副会長の横川先生です。以来このKELESで多くの先生方と知り合う機会に恵まれ、共に仕事をさせていただけたことは私にとって大きな財産です。泉先生、横川先生、前会長の里井先生はじめ様々にお助けいただいた役員の方、会員の皆様に心より御礼申し上げます。さらに私事です、巻頭言で一言ずつ書いてもらった4人の幹事には、いろんな「縁」で幹事会に入ってもらい、2期4年にわたって頼りない事務局をフルに支えてもらいました。本当にありがとうございます。落ち着いたらうまいラーメンでも食べにいきましょう。(KH)